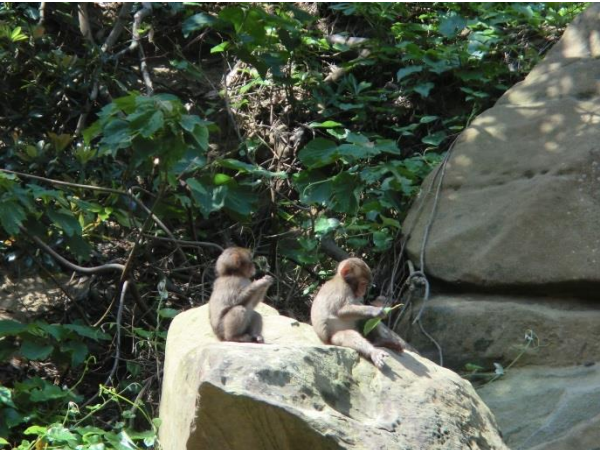




「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 5 月 16 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	川北 安奈

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
宮崎県串間市 幸島	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
幸島実習/野生動物・行動生態野外実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
平成 28 年 5 月 5 日 ~ 平成 28 年 5 月 11 日 (7 日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター幸島観察所 鈴木崇文氏	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の実習では、野生のニホンザルを調査するために宮崎県の幸島に滞在し、半野生のウマを観察するために都井岬を訪れた。都井岬も幸島も日本の霊長類学を語る上では欠かせない重要な地であり、その歴史に思いを馳せると同時に、美しい自然の中に身を置くことで野生の魅力を感じることができた。	
	
幸島のサルは出産の時期が7月ごろと遅く、昨年生まれたアカンボウも比較的小さい。	ウマのグルーミング
	
授乳が2回見られ、幼獣は2回とも授乳直後に横になった。	ウマを撮る人

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### 日程

5月5日：買い出し

5月6日：島へ渡る。昼に一瞬雨が上がり、その間に地図とコンパスをもって島を歩く。観察・実験。

5月7日：観察・実験。

5月8日：観察・実験。島から帰る。

5月9日：都井岬・温泉

5月10日：まとめ・発表

5月11日：片づけ

山の中でサルを追いかけるのは大変だった。サルが樹上に行くとき見失うことが多く、1頭20~30分追跡するのが精一杯だった。しかし、餌付け・人付けされている分、浜では特に近距離で観察でき、グルーミングやニップルコンタクト、きょうだいのやり取りが1m先の岩上で見られたときにはとても感動した。アカンボウの小さな手や指が印象に残っている。観察最終日には、サルが食べている麦と一緒に食べてみたい気持ちになった。これまでサルに対して怖いという感情が強かったが、今回の実習では野生のサルが魅力的に思えた。

近くで動物を観察できるということは、その動物の魅力を知ることに関わりやすいが、一方で距離感を誤ると相手を怒らせることになり、注意が必要である。ウマは縄張りを持ち、1頭のオスに複数頭のメスという群れを構成する。ある程度人に慣れていて触ることが可能な群れもあれば、10m近づくとオスが鼻を鳴らして威嚇する群れもあった。鼻を鳴らしてもこちらが引かなければ、さらに足を踏み鳴らし、最終的には接近してくる。今後も動物との関係を意識しながら、観察する際には彼らの行動に影響を与えないよう、適当な距離を測れるようになりたい。



ソテツ北限自生林の御崎神社にも訪れた。



### 6. その他 (特記事項など)

本実習はPWSリーディング大学院プログラムの支援を受けて行われました。幸島観察所の鈴木崇文さまには、実験の相談に乗っていただき、個体識別では何度も質問させていただきました。杉浦秀樹さま、中村美知夫さまには、実習前の授業のときからフィールドワークについて大変多くのことを教えていただきました。本実習に携わってくださった皆さまに厚くお礼申し上げます。